
折り紙でつくる七夕飾り

〈栗原公民館〉

- 開設趣旨 七夕の伝統行事にちなみ折り紙で七夕飾りを作る。
- 期 間 令和元年7月6日(土)
- 時 間 午後1時30分～午後3時30分 (計2時間)
- 対象・定員 市内在住の幼児・小学生と保護者 20組
- 参加者 18人
- 講師 栗原公民館サークル新座折り鶴の会講師・
日本折り紙協会講師 本多 秀子
- 事業内容 七夕の笹飾り(折り紙で作る織り姫・彦星・七夕飾り)を折り紙で折り、笹を各自持ち帰り、家で飾る。

○まとめ

親子で季節にちなんだ行事の七夕飾りを折り紙で、織り姫・彦星・七夕飾りを折る事が出来た。

子どもが折るにも簡単で、講師の説明は丁寧でわかりやすかった。

「家に帰ってからも折る事が出来る。」「親が子どもに折り紙を教えられないので、いい機会になった。」「2時間の短い時間に沢山折れた。」「笹のプレゼントが有り難かった。」などのアンケート結果になった。

7月7日の七夕の日を前に日本の伝統文化である七夕の気分を味わうことが出来た七夕飾りの講座になった。

ロビーでは、七夕の笹を飾り親子や友達と願い事を、短冊に書く姿が多く見られた。



親子そば打ち体験

〈 栗 原 公 民 館 〉

- 開 設 趣 旨 夏休み中の親子を対象にそば打ちを体験。
- 期 間 令和元年8月21日（水）
- 時 間 午前10時～午後0時30分 （計2時間30分）
- 対 象 ・ 定 員 市内在住の親子・10組
- 参 加 者 6組 13人
- 材 料 費 1,500円
- 講 師 満留賀 店主 柴田 忠尾 他アシスタント4名
- 事 業 内 容 講師がそばの打ち方、切り方を実演し、それを全員が見学した。その後、それぞれの親子が講師の指導を受けながらそばを打った。打ったそばは、その場で茹でて試食した。

○ま と め

毎年、恒例になる親子そば打ち体験は、講師がそばの打ち方の手本を見せスタートした。

説明を聞きながら講師のからだの動き、手先や指先でそば粉の生地や作業の変化を子どもたちにわかりやすくポイントを押さえながら丁寧に話した。

そば粉を混ぜ練るポイントは、空気を外に出す作業や生地の塊を肉まんのようにすることから円すいの形に整え生地を伸ばす時は、のし棒を猫の手のような形にして1.2mm伸ばしていった。生地を折りたたみそば包丁でそばの太さを揃えて切っていった。

切ったそばは、太さがまちまちだったが、「自分で作ったそばは、美味しかった。

子どもは、そばが苦手だったが、食べられるようになった。そばの作り方がわかって良かった。」との感想を頂いた。



親子とうもろこし収穫

〈栗原公民館〉

- 開設趣旨 収穫体験を通じ、食について考えると共に地元の農業について考える機会としたい。
- 期間 令和元年7月20日（土）
- 時間 午後2時～午後3時 （計1時間）
- 対象・定員 市内在住の親子・20組
- 参加者 親子20組 60人
- 参加費 一家族1,000円
- 講師 農業 原井 正治
- 事業内容 公民館ロビーに午後1時50分に集合し受付を行い、畑まで歩いて移動した。はじめに原井氏からとうもろこしを収穫するまでの期間や収穫方法などを教えてもらい、とうもろこし畑に入って収穫体験を行った。

○まとめ

午後は雨が降る予報で開催が危ぶまれたが、雨も降らず開催することができた。

原井氏があらかじめ収穫する8本にテープで印をつけてくれていたため、すぐ収穫することができた。

子どもが収穫している様子をスマートフォンに収め、親子で楽しんでいた。今回も「味来」という品種で甘みが強く、収穫後、採りたてのとうもろこしを生で喜んで食べている人もいた。

今年は天候不順で気温の低い日が続いたが、平年並みのとうもろこしの出来だった。



書き初め教室

〈 栗 原 公 民 館 〉

○開 設 趣 旨 字の美しい形のとり方や筆の使い方の基本を習って、冬休みにでている書き初めの宿題を解決する。

○期 間 令和元年 1 2 月 2 5 日(水)

○時 間 午前 1 0 時～午前 1 1 時 3 0 分 (計 1 . 5 時間)

○対 象 ・ 定 員 市内の小学 3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 年生の児童 2 0 人

○参 加 者 2 0 人

○講 師 栗原公民館サークル講師 田尻 蓉子

ほかアシスタント 4 人

○事 業 内 容 今年の課題は、3 年生は「さくら」、4 年生は「えど川」、5 年生は「語り合い」、6 年生は「世界の友」。

○ま と め

3 年生 4 人、4 年生 4 人、5 年生 7 人、6 年生 5 人の参加だった。

講師とアシスタント 4 人で丁寧に指導してもらい書き上げた。

一番よく書けた作品を学校の提出用、二番目によく書けた作品を公民館に提出し、ロビーに貼り出した。

子ども達は、『「ど」の字、「語」の字を書くのが難しかったが教えてもらってうまく書けた』などの声があった。

子ども達は、課題に熱心に取り組んで書き上げていた。



夏休み親子地球観察隊

〈栗原公民館〉

○開設趣旨 小学生の親子を対象に自然に触れ、環境を守る大切さについて学ぶ

○期間 令和元年8月6日（火）～8日（木）（計3回）

○時間 1日目 午前9時30分～正午

2日目 午前9時30分～正午

3日目 午前8時20分～午後3時（計10時間20分）

○対象・定員 市内在住小学生の児童と保護者・20組40人

○参加者 親子11組 33人 参加延べ人数86人

○講師 荻原 洋志・櫻 博子（環境教育支援ネットワークきづき）

○事業内容

1日目 工作

2日目 太陽の光を集めてポップコーンを作ろう

3日目 館外学習 埼玉県環境科学国際センター

○まとめ

1日目の工作では、どんぐりなどの木の实や木材を使って自由な発想で思い思いに作品を作った。

作品は、題名をつけロビーに展示した。

2日目は、太陽の光を集めてソーラークッカーでポップコーンを作った。ポップコーンは、15分程度で出来あがって試食した。

その後、水道水以外の水（お風呂の残り湯など）を入れたペットボトルを持ち寄り打ち水の体験をした。

打ち水をする前後の気温を測り打ち水をまく事で地面を冷やし水が蒸発することで気温は、37度から35度に下がることを学んだ。

3日目の館外学習では、ワークショップで地球温暖化や環境について学び、生態園（ビオトープ）でカエルやセミなどを観察し自然とふれあうことが出来た。



C02 削減緑のカーテンで夏を涼しく

〈栗原公民館〉

- | | |
|------------|--|
| ○開 設 趣 旨 | グリーンカーテンを作る方法を学び、環境について考える。 |
| ○期 間 | 令和元年 6 月 1 5 日（土） |
| ○時 間 | 午前 1 3 時 3 0 分～午後 1 5 時 3 0 分 （計 2 時間） |
| ○対 象 ・ 定 員 | 市内在住又は在勤の方・ 1 5 人 |
| ○参 加 者 | 1 2 人 |
| ○講 師 | 環境まちづくり地域協議会 in にいざ
櫻 博子、荻原 洋志、市野 進 |
| ○事 業 内 容 | グリーンカーテンを作る方法を学び、環境について考える。 |
| ○ま と め | |

質問は、土の中に根きり虫が発生した場合は、寒い日に土を年に2回干す。ゴーヤの実をつけたい時は、摘芯を必ずする。摘芯をしないとゴーヤの実が実らなかった等を学んだ。



世界の文学を通しての人間探究 「アンクル・トム的小屋」「若草物語」

〈栗原公民館〉

- 開設趣旨 アメリカ文学を通してアメリカ社会について深く知る。
- 期間 令和2年1月17日・24日・31日 毎週金曜日（計3回）
- 時間 午前10時～正午（計6時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・50人
- 参加者 39人 参加延べ人数89人
- 講師 東京都立大学名誉教授 村山淳彦
- 事業内容 ハリエット・ピーチャー・ストウ作「アンクル・トム的小屋」、ルイザ・メイ・オルコット作「若草物語」を通して、アメリカ女性文学について考える。

○ま と め

米国女性文学の作品を紹介し、講師の持っている本「シャーロット」「ホボモク」「広い広い世界」「ルース・ホール」（原文）、「ホープ・レスリー」（訳）、「アンクル・トムの小屋」（原文・訳）を見せていただく。

ハリエット・ピーチャー・ストウ「アンクル・トムの小屋」、ルイザ・メイ・オルコット「若草物語」の作者の生涯、作品のあらすじ、作品のテーマなど講義していただく。

3回目の最後の30分を質問コーナーとして設けていただき受講者は熱心に質問をしていた。

「アメリカその時代背景の説明もしてくれ、これらの本が誕生したいきさつもよく解った」「アメリカ女性文学の歴史がその社会的背景と共によく解った」などの意見や来年度は、日本文学、イギリス文学やフランス文学の講座を行ってほしいとの意見があった。



人権学習

〈栗原公民館〉

- 開設趣旨 人権問題について考える
- 期 間 令和元年10月19日(土)
- 時間 午前10時30分～正午 (計1.5時間)
- 対象・定員 公民館活動サークルの方・66人
- 参加者 16人
- 教材 「(imagination)イマジネーション」約34分
- 事業内容 第2回利用者懇談会の後半に生涯学習スポーツ課から借りたDVDを視聴した。
- まとめ

「子供の人権－いじめ問題－」「同和問題」「障害者の人権－発達障害－」の3部構成になっており、ある小さなFMラジオ番組のオンエアから物語が始まり、リスナーから悩み相談を受けたり、ゲストの解説者にコメントをもらうなどの構成になっている。

「子供のいじめ」では、いじめの構図、いじめのサイン、安心して相談しやすい場所をつくることが大切であるという事を学んだ。

「同和問題」では、部落差別は今も存在する、知らなければ誰かを傷つけてしまうかも、部落差別をなくすためには、「部落」の人と「部落外」の人が直接会って話すなどが大切であるという事を学んだ。

「障害者の人権」では、発達障害とは何か、彼らと共に生きるためにお互いができることを話し合って生きることが大切ではないかという事を学んだ。

「人権」を自分の問題として、また、日常の問題として考える機会となった。



めだか学級 保育付講座

〈栗原公民館〉

○開設趣旨 子育てについていろいろ学ぶなかで、仲間作りのきっかけとする。

○期間 令和元年5月17日・24日・31日、6月7日・14日・21日・28日の金曜日（計7回）

○時間 午前10時～正午（計14時間）

○対象・定員 市内在住の2，3歳児とその保護者 20組

○参加者 20組40人参加延べ人数138人保育延べ人数100人

○事業内容

回	日時	内容	講師
第1回	5月17日（金）	開講式 親子でリトミック	栗原公民館サークル まめちゃんズ 林 篤子
第2回	5月24日（金）	子どもと絵本 絵本の魅力を伝えよう	中央図書館司書 上野 邦晴 足立 尚子
第3回	5月31日（金）	ハーバリウムを作ろう	はなかご 菊地 尚子
第4回	6月7日（金）	子育ての仲間と語ろう	埼玉県家庭教育アドバイザー 持田 久代
第5回	6月14日（金）	子どもの偏食を作らない ためのおやつ	武蔵野友の会 井上 順子
第6回	6月21日（金）	ヨガ 心と体を整える	らくらくシンプルヨーガ 塩原 秀味
第7回	6月28日（金）	子どものしつけに悩んで いませんか	こども110番相談員顧問 にしが はちだい

○まとめ

子育て中は、なかなかハーバリウムを作る事が出来ないなので、子どもを預けて作品に集中して作る事が出来た。講座の中に色々な勉強や経験が出来た。

それぞれの講座を探すのは、とても大変な事なので、連続講座は最後には、もう1回講座があっても良いのではないかなと言った意見もあった。

絵本について親の好みで与えるだけでは、偏ってしまう事にきづかされ絵本の選び方が、参考になった、

保育付き講座は、子どもと離れリフレッシュする機会がもてた。

子どもを預けることで、真剣に子育てについて話し合いなかなか良い機会になった。

保育は、最初は泣いていた子どもも最後には栗原公民館で遊びにいく事を楽しみにするようになり子どもも親と離れる経験もあって良かった。

渋沢栄一 人と思想

〈栗原公民館〉

○開設趣旨 日本資本主義の基礎を築いた大実業家で新一万円札の顔になる埼玉の偉人渋沢栄一の人と思想について考える。

○期 間 令和元年9月3日・10日・17日・24日の火曜日

(計4回)

○時 間 午前10時～正午 (計8時間)

○対象・定員 市内在住又は在勤の方・80人

○参加者 76人 参加延べ人数242人

○講師 順天堂大学講師 金子 元

○事業内容
第1回 生い立ち～青年期まで
第2回 フランスでの体験～明治政府出仕まで
第3回 官界での活躍～実業界への進出
第4回 「官」から「民」へ

○ま と め

近代日本経済の父といわれ、令和3年のNHK大河ドラマ「青天を衝け」の主人公で新一万円札の顔としても注目される渋沢栄一ということで受付開始から数日で定員の80名の申込になった。

渋沢栄一の幼少期から第一国立銀行設立、渋沢栄一の関わった会社までを講義していただいた。

渋沢栄一の「道德経済合一説」の肉声の録音が残っているので聞かせていただいた。

受講者からは、「表面しか知っていなかったので深く掘り下げた話が楽しかった」「タイムリーな企画でよかった」などの声が寄せられた。



歴史人物に学ぶ 「夏目漱石・野口英世・北里柴三郎」

〈栗原公民館〉

- 開設趣旨 新旧１０００円札の肖像画になった３人について学ぶ。
- 期間 令和元年１０月１日・８日・１５日 火曜日 （計３回）
- 時間 午前１０時～正午 （計６時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・８０人
- 参加者 ６２人 参加延べ人数１５１人
- 講師 読売・日本テレビ文化センター講師 鈴木 貞夫
- 事業内容 第１回 夏目漱石
第２回 野口英世
第３回 北里柴三郎

○まとめ

今回は、新旧１０００円札の肖像画になった、夏目漱石、野口英世、北里柴三郎について取り上げた。

幼少期から波乱万丈な人生を送った３人。

野口英世は高収入でも全て遊興費で消えてしまうといった事や北里が源氏の流れを汲んでいるなどあまり知られていないエピソードも講義していただいた。

受講者からは「よく知っている人物で生い立ちから生涯まで改めて知ることができた」「本を読んだだけでは知り得ない人となりが分かり楽しかった」などのこえが寄せられた。

各回の最後に質問コーナーを設けていただき、受講者は熱心に質問していた。



大人のリトミック～歌って踊って脳トレ～

〈栗原公民館〉

- 開設趣旨 健康について学ぶ。
- 期 間 令和元年11月7日木曜日
- 時 間 午前10時～正午（計2時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・15人
- 参加者 17人
- 講師 リトミックサークルまめちゃんズ 林 篤子
- 事業内容 音楽に合わせて歌ったり、踊ったりすることにより脳に刺激を与え心身共に健康を保つ。

○ま と め

初めに準備運動をし、おたまじゅくし体操・全体に輪になりピアノにあわせ止まったり、スキップやゆっくり歩くなど動きをつけたり運動をした。

椅子に座ってCDに合わせたヒップホップ体操や十五夜もちつきワンゲーム即時反応の力を養う手遊びや道具（ボール）を使ったゲームなどをした。

また複式呼吸で声を出してから「翼をください」を歌った。

最後は、皆で輪になりうさぎのダンスの曲にのせて踊った。

終わった後は、受講者の質問や感想があり「手や足を使い音に合わせるのは、非常にアンバランスで難しかった。普段、使っていない脳を活性化した。」などの感想があった。

参加者からは、10歳若返った。

来年もリトミックをやりたいとの声が多数あがり「大人のリトミック」のサークルをはじめたいとまとまった。

音楽に合わせて体を動かすリトミックは、軽い有酸素運動になった。



古事記を学ぶ

〈栗原公民館〉

- 開設趣旨 日本成り立ち古事記について解説する。
- 期間 令和元年6月4日・11日・18日・25日の火曜日
(計4回)
- 時間 午前10時～正午 (計8時間)
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・80人
- 参加者 79人 参加延べ人数256人
- 講師 学習院大学講師 林 東洋
- 事業内容

- 第1回「神武天皇」
第2回「神武天皇、綏靖天皇」
第3回「開化天皇、崇神天皇」
第4回「崇神天皇、垂仁天皇」

○まとめ

80人の申込みがあったが、4回全て出席の方が40人だった。

今年も1回目に前回までのまとめを講義していただき、初めて参加した方にもわかりやすかった。

今回は、初代神武天皇(6)久米歌から始まり第11代垂仁天皇(2)沙本毘古と沙本毘売までの講義となった。

2回目から4回目までは初めに前回のまとめを講義していただき、欠席した方にもわかりやすかった。

来年度は、古事記の講義を一時休止して元号令和が日本最古の歌集である万葉集からの出展なので「万葉集」の講義を行っていただく予定である。

受講者からは、「話の仕方がおもしろくかつ勉強になった」、「分りやすく古事記の解説を聞いた」などの声があり、講師のユーモアを交えた講義を楽しく受講していた。



論語を学ぶ 10

〈栗原公民館〉

- 開設趣旨 孔子の人となりと思想について学ぶ。
- 期間 令和2年2月4日・18日の火曜日（計2回）
- 時間 午前10時～正午（計4時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・80人
- 参加者 71人 参加延べ人数121人
- 講師 学習院大学講師 林 東洋
- 事業内容 孔子とその弟子達との問答から儒教の教えを伝える「論語」について取り上げた講座の10回目になる。
 - 第1回 「忠恕」
 - 第2回 「師匠と弟子」

○ま と め

第1回の2月4日は、初めに前期（平成31年2月）のまとめ「礼」「父母」「孝」「敬」について講義していただき「忠恕」について講義していただく。

第2回は第1回のまとめを講義していただき、「師匠と弟子」について講義していただく。

第3回の2月25日、第4回の3月3日は新型コロナウイルス感染拡大防止で不特定多数の方が参加する事業（50人以上を目安とする）は自粛する市の方針が打ち出されたため中止となる。

それに伴い3月10日の歴史街歩きも26人がすでに申込をしていたが中止とした。

受講者からは、「他の日に講義してほしい」「毎年歴史街歩きを楽しみにしていたのに残念」との声があり、受講したいという人が多い講座であることが伺える。



歴史に学ぶ（前編）

「加賀百万石前田利家」、「関白豊臣秀吉の表と裏」

〈栗原公民館〉

○開設趣旨 前田利家の戦国の鋭い洞察と適切な判断、豊臣秀吉の「おもてなし」と「利休の切腹」について考える。

○期間 令和元年11月8日・15日・22日・29日の金曜日

（計4回）

○時間 午前10時～正午（計8時間）

○対象・定員 市内在住又は在勤の方・80人

○参加者 81人 参加延べ人数232人

○講師 元玉川学園女子短期大学教授 小澤 富夫

○事業内容 第1回 右大臣織田信長から天下一の関白秀吉
第2回 武家関白豊臣秀吉の出現、関白より天皇・公家への献上と対朝廷政策
第3回 関白秀吉主催の大茶会と秀長・松屋久政・久好の茶会
第4回 秀吉と利休に関する年譜

○まとめ

10月のコスモス学級の2回の続きの講義。

おもてなしの茶会は織田信長から始まり、豊臣秀吉が行った北野大茶会は、1日だけ行う事が初めから決まっていた等や利休は黒の茶碗を使うが、秀吉は黒の茶碗は昔の人が使うものと嫌がった等を講義していただく。

受講生からは、「北野大茶湯の様子や引き出物、献上物どこでも知ることのできないことを沢山知ることや観ることができてとても有意義な時間だった。詳しい年表を読めてよかった。」、「今まで学んできた歴史が何だったのかと思うような事実を知っていかに歴史を学ぶべきかがよく分かった。」などの声が寄せられた。



歴史に学ぶ（後編） 「関白豊臣秀吉の相剋」

〈栗原公民館〉

○開設趣旨 「利休の亡くなる前の事」と「秀吉の持っている道具」等について学ぶ。

○期間 令和2年2月7日・21日の金曜日（計2回）

○時間 午前10時～正午（計4時間）

○対象・定員 市内在住又は在勤の方・80人

○参加者 60人 参加延べ人数102人

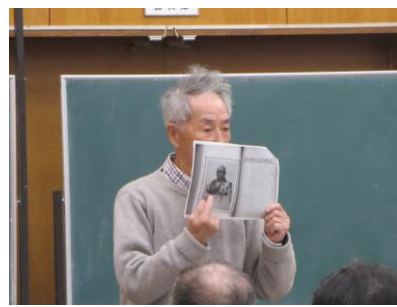
○講師 元玉川学園女子短期大学教授 小澤 富夫

○事業内容 昨年11月の前編の続きで「関白太政大臣豊臣秀吉の誤算と愚行」を取り上げた。

○まとめ

「右大臣織田信長から天下統一の関白豊臣秀吉」「関白太政大臣豊臣秀吉の落日の失策と誤算」などについても講義していただく予定だったが、第3回の2月28日、第4回の3月6日は新型コロナウイルス感染拡大防止で不特定多数の方が参加する事業（50人以上を目安とする）は自粛する市の方針が打ち出されたため中止となる。

受講者からは、「他の日に講義してほしい」「4回講座を受講したかった」などの声があった。



四季の料理 ～新緑を楽しむ料理～

〈栗原公民館〉

- 開設趣旨 四季折々の料理を学ぶ。
- 期 間 令和元年5月28日（火）
- 時 間 午前10時～正午（計2時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・15人
- 参加者 13人
- 材料費 800円
- 講師 ままごとキッチン 前田 純子 アシスタント 工藤公子
- 事業内容 5月の四季を感じさせる料理
- まとめ

レシピは、ライスバーガー、ミネステローネ、ズッキーニフライ、レモンプリンだった。

3グループに分けて、材料の確認、料理作業の手順などレシピの説明をした。

ライスバーガーのポイントは、お肉を炒める時に油を使わない。

お米でバーガーを、1センチぐらいにぺったんこにして2枚作り、ごま油を敷いたフライパンに両目を焦げ目がつくぐらい焼く。

火をとめてから5秒数えたら醤油をまわし焼きおにぎりみたいにする。

手順を、班の中で最初にレモンプリンを作る人とミネステローネの材料を切る人に分かれ手際良く行った。

受講者のアンケートからは、「実践しやすい料理で、美味しく簡単だった。」
「説明もわかりやすかった。」などの声を頂いた。



「歌の宅配便」コスモス学級公開講座

〈栗原公民館〉

- 開設趣旨 コスモス学級のオープニングをなつかしい歌で楽しむ。
- 期 間 令和元年9月27日（金）
- 時 間 午前10時～正午（計2時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・20人（公開コンサートのみ）
- 参加者 11人
- 講師 「歌の宅配便」 広井 顕真
- 事業内容 今年のテーマ「懐かしの昭和30～40年代歌謡と1960年代ポップス」

○ま と め

毎年、高齢者学級「コスモス学級」の最初に公開講座形式にして、広くコスモス学級をアピールするコンサートである。

今年は、青春歌謡とグループサウンズ、フォークソングの時代では、「見上げてごらん夜の星を」、「星のフラメンコ」、「ブルーシャトウ」など12曲、その内4曲を皆で歌い、プレスリーからビートルズでは「ラブ・ミー・テンダー」、「イエスタデイ」、「砂に消えた涙」など12曲、最後にオリジナルソング「がんばれ」を披露していただいた。

歌と歌の合間に次に歌う曲の歌手にまつわるエピソードなどのおもしろく話していただいた。

参加者からは、「とても楽しい時間だった。歌声で前向きになり、元気に生活をする気になった。」、「青春時代を思い出してとてもよかった。」などの声が寄せられた。



「加賀百万石を幕末まで存続させた「前田利家」の“武道ばかりを本となかれ”」コスモス学級公開講座

〈栗原公民館〉

- 開設趣旨 加賀百万石を幕末まで存続させた前田利家について学ぶ。
- 期間 令和元年10月4日・11日（金）（計2回）
- 時間 午前10時～正午（計4時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・20人（公開講座のみ）
- 参加者 19人 参加延べ人数29人
- 講師 元玉川学園女子短期大学教授 小澤 富夫
- 事業内容 コスモス学級の2回目と3回目を公開講座とし、「加賀百万石を幕末まで存続させた「前田利家」の“武道ばかりを本となかれ”」を取り上げた。

○まとめ

コスモス学級の2回目・3回目として公開講座を行いコスモス学級参加者が延べ87人、公開講座参加者が延べ29人。計116人の参加者だった。

前田家が幕末まで百万石を維持できた理由や前田利家遺誠について講義していただいた。

受講者からは「なかなか取り上げられない人物についての講義でとても有意義な内容だった」「教科書では学ぶ事ができない話を聞くことができた」などの声が寄せられた。



水彩画を学ぶ 航空公園

〈栗原公民館〉

- 開設趣旨 趣味で水彩画を始めようとする方、又は、すでにやっている方についてアドバイスし、より技術を追求し、生きがい、仲間作りを目指す。
- 期 間 令和元年5月23日(木)
- 時 間 午前10時～午後1時 (計3時間)
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・15人
- 参加者 8人
- 講師 水彩画家 南雲 義男
- 事業内容 航空公園の風景を描き、午後0時30分に集まり、全員の作品を並べて、講評を聞いた。

○まとめ

午前9時45分に航空公園駅改札前に集合し、歩いてすぐの航空公園でのスケッチを行う。

初めに講師からスケッチの描き方の説明があり、その後、公園内にある茶室「彩翔亭」の門などを入れてスケッチを行った。

公園の前にある図書館の建物、公園の広場から見える飛行機をスケッチしている受講者もいた。

講師は、受講者がスケッチをしている所を回り、描く位置、影の描き方や色の付け方などを丁寧に指導していた。

午後0時30分から描き上げたスケッチを並べ、講師から「構図がいい」、「手前の柵を入れたのがいい。距離感が出ている。」、「風景で人物を入れると色合いを好きに入れられる」などの講評をいただき終了した。

受講者から「公園の中でのんびりゆったりしながら描けた」、「また水彩画の講座を企画してほしい」などの声があった。



やさしい水彩画

〈栗原公民館〉

- 受講者の中で、サークルに入会したいとの希望者も数人いて好評で終了することができた。



伝統文化を学ぶ「能」

〈栗原公民館〉

- 開設趣旨 能に初めて触れる人を対象に能の成り立ちや所作について解説し、能を知ってもらう。
- 期 間 令和元年11月12日（火）
- 時 間 午前10時～正午（計2時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・20人
- 参加者 25人
- 講師 宝生流シテ能楽師、栗原公民館サークル講師 亀井 雄二
- 事業内容 能の歴史は中国の敬楽から始まり日本に渡り、日本では猿楽から能は始まった。秀吉は能の曲を作ったりもした。
- 能舞台は何故屋根や柱があるか、本舞台は縦横約6メートルの正方形などといった説明、楽器（笛、小鼓、大鼓、太鼓）の説明、面はめんとは言わずおもてと言うから始まり、面の種類（老人、女性、鬼神、男性、怨霊）や面はうつむくと寂しげな顔、上を向くと晴れやかな顔になることなど本物の面を見せながら説明していただいた。
- 最後に結婚式でも謡われる練習曲「高砂」を一緒に謡って終了した。

○ま と め

定員は、20名だったが講師の好意で、欠席者がいたが25名の参加となった。

参加者からは、「知らなかった歴史、舞台、成り立ちなどがよく分かった」、「日本の伝統文化でありながら、普段の生活の中で見る機会がない能を解り易く説明していただき、次回は機会があれば実舞台を鑑賞してみたいと思った」などの感想をいただいた。

来年以降も日本の伝統文化に触れる講座を実施していきたいと思った。



お正月飾りを作ろう

〈栗原公民館〉

- 開設趣旨 季節の行事を祝う。
- 期 間 令和元年12月14日土曜日
- 時 間 午前10時～正午（計2時間）
- 対象・定員 市内在住又は在勤の方・10人
- 参加者 10人
- 講師 はなかご 菊地 尚子
- 事業内容 お正月飾りを作る。
- まとめ

全体にお正月飾りの製作を手順に沿い作り方を説明した。

初めに縄でループを作り結束バンドで留め下の縄をほどきしめ縄の土台を5段階の過程をかけて作っていった。

土台が出来上がるとパーツ（松かさ・ラタンボール・水引・和柄リボンなど）を作った。それぞれのパーツをグルーガンで接着し完成させた。

作り方にポイントがある為、1台のテーブルにアシスタントの5人が細やかな指導にあたった。

製作手順は、結束バンドを一つ一つのパーツに止めていくため、簡単なようで難しかった。

受講者から「自分自身では手に入らない手作りの作品に仕上がった。新年にふさわしい作品に仕上げることが出来た。」との声を頂いた。

最後に講師を囲んで受講者とホームページ用の写真を撮り、日本の伝統文化正月飾りの行事を締めくくった。



コスモス学級

〈栗原公民館〉

○開設趣旨 おおむね５５歳以上の方を対象に、生きがい発見の場とする。

○期 間 令和元年９月２７日、１０月４日・１１日・１８日・２５日、
１１月１日の金曜日（計６回）

○時 間 午前１０時～正午

○対象・定員 市内在住又は在勤のおおむね５５歳以上の方・８０人

○参加者 ６４人 参加延べ人数２０３人

○事業内容

回	月 日（曜）	内 容	講師
１	９月２７日（金）	公開コンサート「歌の宅配便」	広井 顕真
２	１０月 ４日（金）	公開講座 「加賀百万石を幕末まで 存続させた「前田利家」の武道ばかり を本となかれ」	小澤 富夫
３	１０月１１日（金）		小澤 富夫
４	１０月１８日（金）	消費者関連のトラブルあれこれ	経済振興課職員
５	１０月２５日（金）	折り紙「干支の鼠を折る」	本多 秀子
６	１１月 １日（金）	館外学習 造幣局と鉄道博物館	

○ま と め

第１回から始まったコスモス学級は、なつかしい歌に受講者も口ずさむ事ができる楽しい時間を過ごすことが出来た。２・３回の公開講座は、小澤講師の話がとてもわかりやすく前田家が衰退せず百万石まで続いたことを学んだ。消費者関連のあれこれでは、クーリングオフは、訪問販売に関してできることやデパートは出来ないが独自に返品はしていることがわかった。訪問販売の悪徳商法に注意しなければならないなどの話があった。折り紙の干支を折るのは、来年の干支の鼠を折った。鼠は、アイスクリーム折りの難しい折り方を教わった。受講者は、毎年参加し今までの折った干支を家で飾っている方々がいて楽しみにしていた。天候に恵まれた館外学習の造幣局・鉄道博物館は、貨幣や鉄道のしくみの知識を勉強し学習出来た。